



コンテナ苗生産のきっかけ

○先進地視察

宮城県 太田樹苗園

宮崎県 (株)長倉樹苗園

師匠 横田 幸介 氏

(本間農業塾代表・岩手県花巻市)

現代の宮沢賢治

吉田樹苗園の概要

所 在	岩手県気仙郡住田町
経 過	昭和30年～3世代に渡り経営 家族労働(4～5人) ほか地元雇用者(数名)
生産数量	スギ実生苗 10万本 カラマツ実生苗 10万本 コンテナ苗 6万本
主な出荷先	国有林、住田町有林、森林組合、ノースジャパン素流協等

コンテナ苗 作付本数

樹 種	規 格	コンテナ数	作付本数
カラムツ	150cc	600個	19千本
スギ	150cc	251個	8千本
	300cc	635個	15千本
アカマツ	300cc	892個	21千本
クロマツ			
合 計			63千本

5

育苗方法の紹介

①肥 料



- 超ロング (700日)
(3～5g/リットル)
- 8,8,8
(2～3g/リットル)
- 微量ヨウ素
(2～3g/リットル)

6

②培地作り



ココピートオールド (80～100%)
鹿沼土 (0～20%)

7

③培地詰め



300cc容器 (428cc)、150cc容器 (216cc)

8

④実生の移植又は播種

樹種	規格	コンテナ	工数
カラマツ	150cc	600個	30人
スギ	150cc	251個	32人
	300cc	635個	
アカマツ	300cc	892個	16人
クロマツ			
合 計			78人

カラマツ・スギ: 幼苗の移植
アカマツ・クロマツ: 播種



9

⑤水管理・薬剤散布・追肥



設置台8台、散水機50個（費用 約200万円）

⑥冬越し



○畝を切り、斜めに置く



○ラブシート



○現在は防風網で被覆

⑦出荷時の状況



○9月のカラマツコンテナ苗の出荷状況

○150cc(10本/巻)、300cc(10本/巻)₁₂

出荷時の失敗例



○崩れる

2年生苗の出荷例、抜き取り時に根鉢が崩れる

抜き取り機の活用



抜き取り機の活用により改善

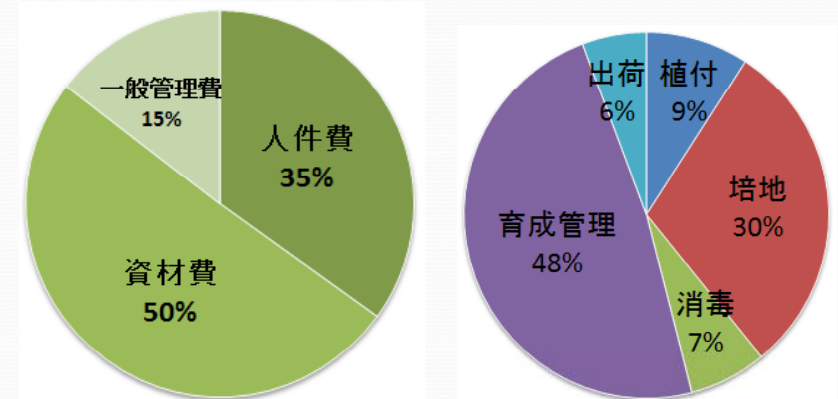
14

育苗してみてわかったこと

- 1 コンテナ苗は150ccが有効
資材コスト、根鉢の質、輸送面
- 2 ムレに注意
キャビティすべてに苗を植えないこと
(例) 40穴→32穴(特にカラマツ)
- 3 消毒
密植状態の苗へ薬剤が届きにくい

15

コンテナ苗木の費用割合(参考)



※コンテナ苗木の価格、35cm上191円、45cm上206円

16

これからコンテナ苗の 生産を始める皆様へ

- 1 その地域に合った作り方を考える
- 2 同じ失敗を繰り返さない様にする
- 3 利用者の要望に少しでも応える

17

今後の展望

- 1 植栽時期を問わない活着性の良さを普及
特にカラマツ、広葉樹等
- 2 植栽労務の平準化と軽減化
通年雇用、地拵えの省力化
- 3 素材生産業との連携
- 4 技術進歩によるコンテナ苗木の低価格化
- 5 有効資材の利用(谷口産業)

18

普及啓発(研修会の開催)



生産者等を対象とした研修会の開催(約100名)

後継者の育成



持続可能な状況で経営を引き継ぐことが重要

終わりに

住田町「森林・林業日本一の町づくり」の取組み

○豊富な森林資源と川上から川下まで一貫した林業の循環



- 森林整備の促進
(町独自の補助)
- FSC認証取得
- 川下の整備